

1. 科目名 ( 単位数 )	教育史特論 ( 2 単位 )	池袋・名古屋	
2. 授業担当教員	石崎 達也	3. 科目番号	EDMP5233
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	【池 袋】春期 【名古屋】秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>本講義の目的は、教育を教育思想の歴史的観点から捉え直すことにある。具体的には、まず西洋教育史における主要な思想家を中心に、彼らが取り組んだ実践や生み出した理論・方法、そして制度の意義について、生きた時代の特徴と併せて解説する。次に、近代における「子ども」の発見の意味や「学校」の役割について教育思想史的に考察するなど、現代の教育との結びつきやこれからの教育のあり方について考察する。そして、受講者各自が、本講義を通じて得た知見に基づき、教育の歴史・思想史研究を行い、その成果をレポートまたは口頭発表の形式でまとめることを目指す。</p> <p>教育史を学ぶことは、教育に関する過去の事実を知ることにとどまらない。過去の教育実践や思想から学び、現代の教育が直面する現実や時代的・社会的な制約を認識した上で、それらの制約を超えて教育の未来を構想するという試みである。したがって、本講義においては、過去と未来、現実と理想を結びつけ、新たな教育の可能性を描き出す受講生各自の豊かな想像力と洞察力が求められる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育史に関するテキストを読み、古代から現代までの教育の流れをつかみ、主要な思想家の理論や実践、方法について自身の言葉で説明することができる。</li> <li>2. 現代社会における教育の諸課題に対し、歴史的観点から多角的に考察することができる。</li> <li>3. 教育の歴史・思想史研究を理解し、それを自身の研究テーマに応用・活用することができる。</li> </ol>		
9. アサイメント ( 宿題 ) 及びレポート課題	テキストに関するワークシート課題、中間・期末レポート課題 ( 2,000〜4,000 字程度 ) を課す。		
10. 教科書・参考書 ・教材	<p>【教科書】 今井康雄編『教育思想史』、有斐閣、2009。</p> <p>【参考書】 高橋勝・下山田裕彦編『子どもの〈暮らし〉の社会史』、川島書店、1997。 プラトン ( 藤沢令夫訳 ) 『国家』 ( 上・下 )、岩波書店、1979。 アリストテレス ( 高田三郎訳 ) 『ニコマコス倫理学』 ( 上・下 )、岩波書店、1971-1973。 コメニウス, J.A. ( 井ノ口淳三訳 ) 『世界図絵』、ミネルヴァ書房、1988。 ロック, J. ( 服部知文訳 ) 『教育に関する考察』、岩波書店、1967。 ルソー, J.-J. ( 今野一雄訳 ) 『エミール』、岩波書店、1964。 アリエス, P. ( 杉山光信・杉山恵美子訳 ) 『〈子供〉の誕生-アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』、みすず書房、1986。 デュルケーム, É. ( 麻生誠・山村健訳 ) 『道徳教育論』 ( 1・2 )、講談社、2010。 デューイ, J. ( 市村尚久訳 ) 『学校と社会・子どもとカリキュラム』、講談社、1998。 イリイチ, I. ( 東洋・小澤周三訳 ) 『脱学校の社会』、東京創元社、1977。</p>		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育史に関するテキストを読み、古代から現代までの教育の流れをつかみ、主要な思想家の理論や実践、方法について自身の言葉で説明できるようになったか。</li> <li>2. 現代社会における教育の諸課題に対し、歴史的観点から多角的に考察できるようになったか。</li> <li>3. 教育の歴史・思想史的研究を理解し、それを自身の研究テーマに応用・活用できるようになったか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的参加度 ( 参加意欲、発言、発表等 ) 総合点の 30%</li> <li>2. レポート ( 小レポート・中間・期末課題を含む ) 総合点の 70%</li> </ol> <p>上記の他に、本学の規定に定められている 3 / 4 以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	教育の歴史を学ぶことは、今の教育を知り、未来の教育を考えるための第一歩です。この講義を通して、教育の歴史という名の冒険へ旅立ちましょう。		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	オリエンテーション / 教育思想の歴史を学び・教育思想の歴史から学ぶ		
【学習の目標】	教育思想の歴史を学ぶことの意味を理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。		
【学習の内容】	教育思想史における学問的意義、その重要性、および現代的展望について体系的に学習する。		
【キーワード】	教育・人間形成・子ども・社会		
【学習の課題】	教育思想に興味を持った点やこれから本講義を通して学びたいことに関する小レポートを作成する。		
【参考文献】	Kornadt, H.-J./Trommsdorff, G. (1990): Naive Erziehungstheorien japanischer Mütter- Deutsch-japanischer Kulturvergleich. Zeitschrift für Sozialisationsforschung und Erziehungssoziologie, 10(4), S. 357-376.		
【学習する上での留意点】	提示された問いに対し、自らの教育体験や教育観に照らして深く考察すること。		

2. テーマ	レトリックと教育
【学習の目標】	レトリックと教育の関連性について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	レトリックの歴史・理論・教養論を学習する。
【キーワード】	レトリック的教養論・ソフィスト・クインティリアヌス・アウグスティヌス
【学習の課題】	レトリックと教育に関する小レポートを作成する。
【参考文献】	アリストテレス『弁論術』戸塚七郎訳、岩波文庫、1992年。
【学習する上での留意点】	「弁論の作法」について学び、レトリックの現代的な役割を考察すること。
3. テーマ	哲学と教育
【学習の目標】	世界三大哲学者の思想を理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	西洋教育思想の原点を築いたソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想を学習する。
【キーワード】	ソクラテス「対話術」・プラトン「イデア論」・アリストテレス「幸福」
【学習の課題】	哲学的伝統が教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。
【参考文献】	プラトン（藤沢令夫訳）『国家』（上・下）、岩波書店、1979年。
【学習する上での留意点】	世界三大哲学者の思想が教育に与えた影響について考察すること。
4. テーマ	キリスト教と教育
【学習の目標】	キリスト教と教育の関連性について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	キリスト教教育思想の変遷において重要な役割を果たしたアウグスティヌス、トマス・アクィナス、ルターの思想を学習する。
【キーワード】	基礎づけ主義・中世スコラ学
【学習の課題】	キリスト教と教育に関する小レポートを作成する。
【参考文献】	岩村清太『アウグスティヌスにおける教育』、創文社、2001年。
【学習する上での留意点】	キリスト教と教育の共通点を考察すること。
5. テーマ	ルネサンスとヒューマニズム
【学習の目標】	ルネサンスにおけるヒューマニズムの思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	中世の思想（神中心主義）からヒューマニズム（人文主義）への思想的転換を学習する。
【キーワード】	中世スコラ学・ヒューマニズム・人文学・人間の尊厳
【学習の課題】	ヒューマニズムの思想が青少年の教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。
【参考文献】	佐藤三夫『イタリア・ルネサンスにおける人間の尊厳』、有信堂高文社、1981年。
【学習する上での留意点】	ヒューマニズムの思想に基づく教育の特徴を考察すること。
6. テーマ	コメニウスの教育思想
【学習の目標】	コメニウスの教育思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	17世紀の時代背景をふまえ、コメニウスの教育思想を学習する。
【キーワード】	近代教育学・『大教授学』・『開かれた言語の扉』・『世界図絵』
【学習の課題】	コメニウスの教育思想を通して、次世代を担う子どもたちに伝えなければならないものに関する小レポートを作成する。
【参考文献】	コメニウス, J.A. (井ノ口淳三訳)『世界図絵』、ミネルヴァ書房、1988年。
【学習する上での留意点】	コメニウスの教育思想の現代的意義について考察すること。
7. テーマ	ロックの教育思想
【学習の目標】	ロックの教育思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	初期近代ヨーロッパ世界の成立と展開をふまえ、ロックの教育思想を学習する。
【キーワード】	経験論・タブラ・ラサ・ジェントルマン教育
【学習の課題】	ロックの教育思想が今日の教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。
【参考文献】	ロック, J. (服部知文訳)『教育に関する考察』、岩波書店、1967年。
【学習する上での留意点】	ロックの教育思想の歴史的意味と限界について考察すること。
8. テーマ	ルソーの教育思想
【学習の目標】	ルソーの教育思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	18世紀フランスの社会状況と連動したルソーの教育思想を学習する。
【キーワード】	〈子ども〉の発見・消極教育論・「自然に帰れ」
【学習の課題】	ルソーの教育思想が今日の教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。
【参考文献】	ルソー, J.-J. (今野一雄訳)『エミール』、岩波書店、1964年。 アリエス, P. (杉山光信・杉山恵美子訳)『〈子供〉の誕生—アンシャン・レジム期の子供と家族生活』みすず書房、1986年。
【学習する上での留意点】	ルソーの思想の現代的意義について考察すること。
9. テーマ	古典的人間形成論—シラーからニーチェまで
【学習の目標】	シラー、フンボルト、ヘーゲルの教育思想とそれに対するマルクスやニーチェの批判について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。
【学習の内容】	18世紀末から19世紀にかけて展開されたドイツにおける人間形成論を学習する。
【キーワード】	人間形成論・芸術による人間形成・美的教育・遊び・芸術・人間形成のための学校・古典語教育・『精神現象学』・弁証法
【学習の課題】	古典的人間形成論が今日の教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。
【参考文献】	シラー, F. (小栗孝則訳)『人間の美的教育について』、法政大学出版局、2017年。

	<p>ヘーゲル, G. W. F. (熊野純彦訳) 『精神現象学』 (上・下)、筑摩書房、2018。          ニーチェ, F. W. (秋山英夫訳) 『悲劇の誕生』、岩波書店、1966。          マルクス, K. (城塚登・田中吉六訳) 『経済学・哲学草稿』、岩波書店、1964。</p> <p>【学習する上での留意点】 マルクスやニーチェの思想を通して、古典的人間形成論について批判的に考察すること。</p>
10. テーマ	<p>ペスタロッチとフレーベルの教育思想</p> <p>【学習の目標】 ペスタロッチとフレーベルの教育思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。</p> <p>【学習の内容】 ヨーロッパの学校教育の転換期となる18世紀末から19世紀の時代背景をふまえ、近代教育学の基礎を築いたペスタロッチとフレーベルの教育思想を学習する。</p> <p>【キーワード】 「メトデー」(「合自然的」教授法)・「生活が陶冶する」・直観教授法・幼児教育・遊び・恩物教育学・幼稚園</p> <p>【学習の課題】 ペスタロッチとフレーベルの教育思想が今日の教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 長田新編『ペスタロッチ全集』、平凡社、1959-60。          フレーベル, F. W. (荒井武訳) 『人間の教育』 (上・下)、岩波書店、1964。</p> <p>【学習する上での留意点】 フレーベルがペスタロッチの思想から学んだことをおさえること。</p>
11. テーマ	<p>ヘルバルトから新教育へ</p> <p>【学習の目標】 ヘルバルトの教育思想・教授法、新教育の定義・特徴について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。</p> <p>【学習の内容】 学校的世界の拡充をふまえ、ヘルバルトの教育理想・教授法、新教育の定義・特徴を学習する。</p> <p>【キーワード】 教育的タクト・〈教職の科学〉としての教育学・「管理・訓練・教授」・四段階教授法・ツイラー・ライン・「新教育」          ・子ども中心主義・エレン・ケイ</p> <p>【学習の課題】 ヘルバルト派に対する「新教育」の立場からの批判、「新教育」が今日の教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 ヘルバルト, J. F. (三枝孝弘訳) 『一般教育学』、明治図書、1960。          ケイ, E. (小野寺信・小野寺百合子訳) 『児童の世紀』、富山房、1979。</p> <p>【学習する上での留意点】 ヘルバルト学派と「新教育」との相違点をおさえること。</p>
12. テーマ	<p>デュルケムと教育科学</p> <p>【学習の目標】 デュルケムの教育思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。</p> <p>【学習の内容】 19世紀末から20世紀初頭における西欧社会の動態をふまえ、デュルケムが提唱した諸概念を学習する。</p> <p>【キーワード】 社会化・機能的分化と有機的連帯・教育科学・道徳教育論</p> <p>【学習の課題】 デュルケムの教育の定義・道徳教育論を通して学んだことに関する小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 デュルケム, É. (麻生誠・山村健訳) 『道徳教育論』、講談社、2010。</p> <p>【学習する上での留意点】 「社会化としての教育」の本質、現代的意義を考察すること。</p>
13. テーマ	<p>デューイと新教育</p> <p>【学習の目標】 デューイの教育思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。</p> <p>【学習の内容】 19世紀末から20世紀初頭のアメリカにおける教育思想の転換期を背景に、デューイが提唱した進歩主義教育思想を学習する。</p> <p>【キーワード】 プラグマティズム・進歩主義教育思想・デモクラシー・「なすことによって学ぶ」</p> <p>【学習の課題】 デューイの教育思想が今日の教育に与えた影響に関する小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 デューイ, J. (市村尚久訳) 『学校と社会・子どもとカリキュラム』、講談社、1998。          デューイ, J. (市村尚久訳) 『経験と教育』、講談社、2004。</p> <p>【学習する上での留意点】 進歩主義教育思想と「新教育」との相違点をおさえること。</p>
14. テーマ	<p>新教育以後の教育思想</p> <p>【学習の目標】 イリイチ、アリエス、フーコー、ルーマン、ハーバーマスの思想について理解し、自分の言葉で論理的に説明できるようになること。</p> <p>【学習の内容】 教育の新たな可能性を構想するための思想を学習する。</p> <p>【キーワード】 脱学校論・〈子供〉の誕生・規律訓練としての教育・コミュニケーション論</p> <p>【学習の課題】 教育の新たな可能性を構想するための諸思想を通して学んだことに関する小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 イリイチ, I. (東洋・小澤周三訳) 『脱学校の社会』、東京創元社、1977。          アリエス, P. (杉山光信・杉山恵美子訳) 『〈子供〉の誕生-アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』、みすず書房、1986。          フーコー, M. (田村俣訳) 『監獄の誕生監視と処罰』、新潮社、2020。          ルーマン, N. (村上淳一訳) 『社会の教育システム』、東京大学出版会、2004。          野平慎二『ハーバーマスと教育』、世織書房、2007。</p> <p>【学習する上での留意点】 教育の現代的諸課題に対して、教育というシステムそのものを疑い、多角的に分析する視点を持つこと。</p>
15. テーマ	<p>ふりがえりと総括</p> <p>【学習の目標】 本講義のふりがえりとまとめを行う。</p> <p>【学習の内容】 前半では、各自が作成した期末レポートの発表を中心に行い、後半でまとめを行う。</p> <p>【キーワード】 発表を通じたふりがえりによる学びの深化</p> <p>【学習の課題】 期末レポート課題を発表すること。</p> <p>【参考文献】 特になし</p> <p>【学習する上での留意点】 受講生各自の発表を通して、本講義で学んだことをふりがえりながら、各自の探究へと深化させること。</p>